

2026年度

入試ガイド〔別冊〕

過去問題集

英語〔問題 P1 解答 P14〕

数学〔問題 P4 解答 P14〕

国語〔問題 P12 解答 P15〕

I 下記の記述は、世界的なスポーツの祭典「オリンピック」の始まりである「古代五輪」に関するものです。本文を読み、問いに答えなさい。

著作権処理の関係上省略

(the japan times *alpha*, August 16, 2024)

(*) Panhellenic Games「ギリシアを中心としたヘレニズム文化圏の宗教行事」 Zeus「ゼウス（ギリシア神話の神）」 Pythian Games「ピュティア競技大会」 Apollo「アポロ（ギリシア神話の神）」 Nemean Games「ネメア競技大会」 Isthmian Games「イストミア競技大会」 Poseidon「ポセイドン（ギリシア神話の神）」 wreath「リース（花や葉を編んだ輪・冠）」 Olympia「オリンピア（古代ギリシアの地域名）」 loophole「抜け道」 chariot「戦闘用馬車の」 Kyniska「王女キュニスカ」

1

- (1) 文中の (A) ～ (D) に入る語としてそれぞれ最も適切なものを、下記の(a)～(f)から一つずつ選び記号で答えなさい。ただし、同じ選択肢を二度使ってはならない。
- (a) at (b) to (c) by (d) in (e) as (f) from
- (2) 文中の下線部[1]について、反対の意味をもつ語を、本文から抜き出して書きなさい。
- (3) 文中の下線部[2]について、文法的に正しい形に変えなさい。一語で答えること。
- (4) 文中の下線部[3]について、似た意味をもつ語句として最も適切なものを、下記の(a)～(d)から選び記号で答えなさい。
- (a) gradually (b) randomly (c) in rotation (d) in place
- (5) 文中の下線部[4]の意味として最も適切なものを、下記の(a)～(d)から選び記号で答えなさい。
- (a) ～と同様に (b) ～とは異なり (c) ～に関して (d) ～の一部として
- (6) 古代五輪では女性の競技参加が許されていませんでしたが、下線部[5]のような出来事が生じた理由を説明しなさい。

2

II 下記の記述は、アメリカ合衆国第 16 代大統領であるエイブラハム・リンカンが残した言葉とその説明文です。本文を読み、問いに答えなさい。

著作権処理の関係上省略

(『Inspirational Proverbs and Sayings 心に響く英語のことわざ・名言 100』IBC パブリッシング, 2011)

- (1) 文中の下線部[1]について、名詞（一語）に変えなさい。
- (2) 文中の下線部[2]について、文法的に正しい形に変えなさい。
- (3) 文中の下線部[3]について、似た意味をもつ語として最も適切なものを、下記の(a)～(d)から選び記号で答えなさい。
- (a) blame (b) ignore (c) criticize (d) excuse
- (4) 文中の下線部[4]が示す内容を日本語で答えなさい。
- (5) 文中の下線部[5]の意味として最も適切なものを、下記の(a)～(d)から選び記号で答えなさい。
- (a) 特徴 (b) 習慣 (c) 態度 (d) 感謝

3

III 下記の英文について、() 内の語句を並び替え、文を完成させなさい。語句はすべて小文字で示していますが、文頭は大文字で書きなさい。

- (1) (the / watch / TV / she / turned on / to) the news.
- (2) He (as / play / brother / well / doesn't / baseball / as / his).
- (3) If he (joined / team, / would / our / have / had / we / won) the game.
- (4) Could (me / to / you / your / tell / how / pronounce) name?
- (5) It (her / difficult / is / to / for / make) a decision.

IV 下記の英文中の () に入る語句としてそれぞれ最も適切なものを、(a)～(c)から一つ選び記号で答えなさい。

- (1) I am busy this week, but he is ().
(a) busier (b) more busy (c) more busier
- (2) The situation is () than before.
(a) more bad (b) worse (c) most bad
- (3) Mark is twice as () as John.
(a) tall (b) taller (c) tallest
- (4) I () go to the bank before 5:00 p.m.
(a) should to (b) has to (c) must
- (5) I'm not feeling well now. I () not go to the party.
(a) have (b) may (c) hardly
- (6) Hurry up! The train will leave () ten minutes!
(a) to (b) around (c) in
- (7) The cafeteria is () the end of the hall.
(a) onto (b) on (c) at
- (8) Our team meetings usually last () about 30 minutes.
(a) on (b) for (c) with

(次ページに続く)

4

次ページへ続く ➡

- V 次の(1)～(8)の質問に対する応答としてそれぞれ最も適切なものを、下記のA)～H)から一つずつ選び記号で答えなさい。

- A) I go to the gym three times a week.
- B) We often gather at each other's house or go to the movies.
- C) The price is over 50,000 yen.
- D) I was speaking with my sister.
- E) No, it begins at five.
- F) Sure. To be honest, it doesn't look very good on you.
- G) Let's get together at the station.
- H) I wanted to go, but I couldn't make it.

6

- ### Cats or dogs as pets?

Also / On the other hand / First of all / Therefore / For example

- (1) Having finished her homework, she decided to watch a movie.
- (2) She helped me find a spoon that I had lost in the kitchen.
- (3) I couldn't imagine what would happen next.
- (4) I like songs which remind me of my youth.
- (5) Go to bed, or you won't be able to get up early in the morning.

- (1) 車がなければ、私たちの生活は不便であるだろう。
- (2) 手に持っているものを私に見せなさい。
- (3) 父は旅行のために私に車を使わせてくれた。

7

数学(問題)

MEMO

II 次の空欄にあてはまる数または式を，それぞれの解答欄に記入しなさい。

- A. 平面上に $A(2, 1)$, $B(4, 3)$, $P(0, t)$ (ただし, $t > 0$ とする) がある。3 点 A, B, P を通る円を C とする。

- (1) C の中心の座標を (a, b) とするとき, b を a の式で表すと, $b = \boxed{1}$ である.

- (2) $t = 2$ のとき, C の中心の座標は $(\boxed{2}, \boxed{3})$ であるので, C の方程式は $\boxed{4} = 0$ である.

- B. $0 \leq \theta < 2\pi$ において, $y = 3(\sin \theta + \cos \theta) + \sin 2\theta$ とし, $t = \sin \theta + \cos \theta$ とする.

- (1) t のとり得る値の範囲は 5 である.

- (2) y を t の式で表すと $y = \boxed{6}$ である。

- (3) y の最大値は 7 であり、最小値は 8 である。

2

(1) t を実数とする。曲線 $y = x^3$ 上の点 (t, t^3) における接線の方程式を t を用いて表しなさい。

- (3) 曲線 $y = x^3$ と $y = x^2 + x + c$ との両方に接する直線が 4 本存在するときの c の範囲を求めなさい.

3

問三 文中の――線部(イ)「人妻は二十六か七、色のさめた赤いセーターにネズミ色のラシヤのスカート。ウェーブの伸びた髪毛が乱れて」とあるが、この描写から、この「人妻」についてどのような様子がうかがわれるか。最も適当なものを、次の選択肢のうちから一つ選んで数字で答えよ。

- ① 生活に苦勞している様子。
- ② おしゃれに元々興味がなく無頓着な様子。
- ③ 体調が悪くなっている様子。
- ④ 派手好きで軽薄な様子。
- ⑤ 若々しい様子。

問四 文中の――線部(ウ)「すると若い母親は邪険にスカートを振り放して、うるさいね」と邪険にいうのであった」とあるが、この若い母親が女の子に対してこのような態度を取ったのはなぜだと想像されるか。最も適当なものを、次の選択肢のうちから一つ選んで数字で答えよ。

- ① 女の子の声が大きくて、周囲に迷惑だと思ったから。
- ② スカートを引つ張られたせいで着崩れてしまうのが嫌だったから。
- ③ 「おばちゃん」を訪問したことを他人にばらされたくなかったから。
- ④ 悩みで頭がいっぱいになっていて、精神的余裕がなかったから。
- ⑤ 日頃から子育てを放棄していて、それがこの時も出たから。

問五 文中の――線部(エ)「この母子の短かい対話そのものが、疑問の余地のないほどあからさまに事情を語っている」とあるが、この「事情」とはどのようなことだと考えられるか。母子が「おばちゃん」を訪ねた目的と結果も含めて具体的に説明せよ。

問六 文中の空欄に当てはまる語句として最も適当なものを、次の選択肢のうちから一つ選んで数字で答えよ。

- ① やがて
- ② そのうえ
- ③ けれども
- ④ あるいは
- ⑤ やはり

問七 文中の――線部(オ)「私はカサをさしており、ひるめしを食べるに足りる程度の懐中もあつた」とあるが、ここであえて「ひるめしを食べるに足りる程度の懐中もあつた」という表現を入れることにはどのような効果があると考えられるか。最も適当なものを、次の選択肢のうちから一つ選んで数字で答えよ。

- ① 筆者が今から何をやるうとしているのかの明示。
- ② 筆者はひるめし代ぐらいには困ってはいないが、決して裕福ではないことの強調。
- ③ いつもギリギリのお金しか持たない節約家であるという筆者の人物の説明。
- ④ ひとまずやるうとしていることの遂行に困るほど切羽詰まっていけない筆者とその男との対比。
- ⑤ ここは日常生活の何気なくありふれた場面であるということのほめかし。

問八 文中の――線部(カ)「思いあぐねている」、――線部(キ)「いささかも」の意味として最も適当なものを、後の選択肢のうちからそれぞれ一つずつ選んで数字で答えよ。

――線部(カ)「思いあぐねている」

- ① 強い思いで、決心をしている
- ② よい案をひねりだそうと集中している
- ③ 心はある程度決まったが、本当にそれでいいのか迷っている
- ④ いくつもある選択肢からどれを選ぶのか迷っている
- ⑤ いくら考えてもどうすればいいのかわからず、困り果てている

――線部(キ)「いささかも」

- ① 少しも
- ② 多少は
- ③ 多くは
- ④ 長い目で見ても
- ⑤ 一時的にも

問九 文中の――線部(ク)「こういう街」とはどういう街か。それを端的に表す語句を、文中から十六字で抜き出せ。

Ⅲ 次の問いに答えよ。

問一 次の1～5の四字熟語について、空欄に当てはまる漢字一字をそれぞれ書け。

- 1 唯□無二
- 2 呉越□舟
- 3 日進□歩
- 4 花□風月
- 5 諸行無□

問二 次の1～5の熟語の対義語を漢字でそれぞれ書け。

- 1 需要
- 2 演繹
- 3 義務
- 4 収入
- 5 攻撃

国語は12ページより
逆の順番で
掲載しています

問十一 本文をその内容によって三つに区切るとすると、その切れ目はどこどこか。最も
適当なものを、次の選択肢のうちからそれぞれ一つずつ選んで数字で答えよ。

- ① 文中の記号Aの箇所
- ② 文中の記号Bの箇所
- ③ 文中の記号Cの箇所
- ④ 文中の記号Dの箇所
- ⑤ 文中の記号Eの箇所
- ⑥ 文中の記号Fの箇所
- ⑦ 文中の記号Gの箇所
- ⑧ 文中の記号Hの箇所
- ⑨ 文中の記号Iの箇所

問十二 問十一で区切った三つの意味段落には、それぞれ筆者による題が付けられている。
それらの題として最も適当なものを、次の選択肢のうちからそれぞれ一つずつ選んで数
字で答えよ。

- ① 能好き
- ② 能ざらい
- ③ 能は古くさい
- ④ 能は新しい
- ⑤ 能はわかりやすい
- ⑥ 能という名前
- ⑦ 東洋哲学

Ⅱ 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

十二月になると一日一日に時を刻む音が聞えるようである。ほかの月にはこんなことはな
いし、そんな感じのすることがあっても、十二月のそれほど脅迫感はない。いまこの原稿を
書いていながら、私は現実とその時を刻む音を聞きその音の速度の早さと威かく(嚇)とに
身のちぢむのを覚えているのである。

ひるめしを食べに出て、市電で仕事場へ帰る途中、私の前へ若い人妻が立った。背中に赤
児を背負い、五歳ぐらいの女の子をつれている。人妻は二十六か七、色のさめた赤いセー
ターにネズミ色のラシヤのスカート。ウエーブの伸びた髪毛が乱れて、細おもての青ざめた
顔はこわばり、みけん(眉間)には疲れたような、神経質なしわが深く刻まれている。おち
つきを失なった眼は絶望した人のように、するどく一点をみつめていた。女の子は片手で母
親のスカートにつかまり、片手に半分を紙で包んだキャンデーを持っていて、それをしゃぶ
りながら母に呼びかけるのであった。A

「かあちゃん、おばちゃんに会えてよかったね、ねえかあちゃん」
若い母親は一点をみつめたまま答ええない。「かあちゃん」とまた女の子は呼びかける「ねえ、
おばちゃんがうちにいてよかったね」、ねえとスカートを引張る。すると若い母親は邪険に
スカートを振り放して、うるさいね、と邪険にいうのであった。

「うるさいね、黙つていよ」おばちゃんがその母子とどういう関係の人であるかむろんわ
からない。若い母親は赤児を背負い、幼ない子をつれて「おばちゃん」を訪ねていったので
ある。おばちゃんはうちにいたし、彼女たちはおばちゃんに会った。女の子にはそれは「よ
かった」のである。しかしその若い母親にはよくはなかつたらしい——十二月。私はここで
自分の想像を組み立てようとは思わない。この母子の短かい対話そのものが、疑問の余地の
ないほどあからさまに事情を語っているのであって、しかも十二月であるということとは、こ
ちらにとつて心臓へあいくちを突込まれるかに似た思いを致させられるのである。B

小雨の降る日、 ひるめしに出たときのことであるが、野毛という町の裏を四十がら
みの男性が、ねんねこぼんでんで赤児をおぶつて、カサもささずに歩いてた。私はカサを
さしており、ひるめしを食べるに足りる程度の懐中もあつた。その男性はぶしようにひげが伸
び、頭髪も百日かずらのように伸び、そして白茶けたようなむくんだ顔で、どこを見ても
なくぼんやりと前方を見まもりながら、なにも目的のないことを証明するような足どりで、
雨の中をゆつくり歩いてゆくのである。それほどの降りではないが、雨の降っていることも
気づかないほど、なにか思いあぐねているのだろうか。年配から察すると背中の子のほかに
一人や二人の子があるであろう。妻の病氣、それとも妻がかせいでいるのか、などという想
像をいささかも要しないほど、赤児を背負つて雨の中を歩いてゆくその男の姿は、人間生活
のもろさとはかなさを語っているようであった。C

街をゆくとき大売出し、タナざらい、残品サービスセール、全店半額、などという旗やビラ

が軒並にかかげられ、スピーカーや店員たちの客を誘惑しようとする声がかみついてくる。
時を刻む秒読みのような音であり、色であり、文字であつて、人は最後の列車に乗りそこな
うのではないかというなせかせかした不安定な気分にとらわれるのである。こういう
街の中を「人の紳士が子大をつれて歩いてた。ぼろぼろになった古洋服の上着に、ボタン
がないものだからなわの帯をしめ、半ば裂けて布地のひらひらするズボンにゾウリをはいて
いる。ズボンのさげ目からはあかだらけの毛ズネが見えるし、えり首などもあかでどす黒く、
それで髪毛だけばかりたてで油が光っている。これらの紳士社会では十円玉一個で調髪する
専門家がいるそうであるが、この紳士も正月用に調髪したものであろう。彼は師走の街
の切迫したけしきを横眼にながめながら、腕組みをしてゆうゆうと歩いてゆく。そのあゆみ
は彼が時を刻む音の圏外にいることを「うぜん(傲然)」と示すものであり、大みそかなんぞ
くそくらえという意気のあらわれであつた。D

子大はその主人の足にひき添つて歩きながら、愛のこもつた熱心な眼で主人を見あげ、ま
たちよこちよと歩き、そして熱心な愛のこもつた眼で主人を見あげ、ときたま主人が見お
ろすと、まるでお互いの愛をたしかめ得たかのようにしつぽを力いっぱい振り、主人はまた
ゆうぜんと歩いてゆくのであつた。血まなこになつて活動する師走の街にあつて、この紳士
がどうしてこのように超然としていることができるか、などということをいおうとは思わな
い。E

いま仕事部屋の外で宣伝カーなるものがわめいている。いよいよ押し詰まてまいりました。
私はなんのためにもなくぞつとし、机の前で身をちぢめる。私は赤児を背負つて雨にぬれな
がらゆく男であり「おばちゃん」はうちにいて会うことはできたけれど、目的ははたされず
に子をつれてむなしく帰る若妻に似ているのである。これをもし舞文曲筆などという人が
あつたら、その人こそ年末の秒読みを感ずることのない、幸福なしかし恵まれざる楽天家と
いうほかはないでしょう。そういう人たちはすでにうめでたいので、めでたいと申し上げ
ても皮肉にはならないと思う。

(山本周五郎「年の瀬の音」より)

- 〔注〕
- *1 ラシヤ ・・・糸を密に織つて起毛などの加工仕上げをほどこした厚手の毛織物。
 - *2 あいくち ・・・つばのない短刀。
 - *3 ねんねこぼんでん ・・・赤ん坊を背負つた上から羽織る綿入の半纏。
 - *4 百日かずら ・・・歌舞伎のかつらの一種。長期間月代をそらずに伸び放題にした形のもので、盗賊や囚人などの役に用いる。
 - *5 舞文曲筆 ・・・いたずらに言葉をもてあそび、事実を曲げて書くこと。

問一 本文には次の文章が抜けている。文中のどこに入れるのがよいか。最も適当なものを、
後の選択肢のうちから一つ選んで数字で答えよ。

私はただせんぼう(羨望)のため息をもらしながら、この誇り高き紳士とその愛に
よつてむすばれた子大のとあとを、かなりながいあいだついていった、ということ
を告白するだけである。

- ① 文中の記号Aの箇所
- ② 文中の記号Bの箇所
- ③ 文中の記号Cの箇所
- ④ 文中の記号Dの箇所
- ⑤ 文中の記号Eの箇所

問二 文中の——線部(ア)「十二月になると一日一日に時を刻む音が聞えるようである。ほ
かの月にはこんなことはないし、そんな感じのすることがあつても、十二月のそれほど
脅迫感はない」とあるが、本文全体をふまえた上で、筆者はなぜここで「脅迫感」とい
う言葉を使ったと考えられるか。最大の理由として最も適当なものを、次の選択肢のう
ちから一つ選んで数字で答えよ。

- ① 年末は大掃除や買い物などの正月の準備などでやることがたくさんあつてせわしな
いから。
- ② 年末と言えば、借金やつけ払いの返済など先送りにはできない期限がある時期であ
り、その解決のめどが立たず追い詰められている人も多い時期だから。
- ③ とうとう一年最後の月になってしまつて、多くの人は、今年の目標が達成されてい
ないことに、この一年の過(こ)し方を後悔しがちだから。
- ④ 正月休みを返上して働くはめになることを避けようと、多くの人が十二月に仕事を
詰め込みがちだから。
- ⑤ 単に月が替わるだけでなく年も替わるため、何か新たなことを始めなければならな
いような気分になるから。

語を直訳したようで、日本の繪舞台で行われる、実物のお能の感じがしない。とは言え「能」は事実上そんな物には違いないのであるが、言わば、そんなものを煎じ詰めて、(中略)その感じ、もしくはそのあらわれを「能」と名付けた……でも言うよりほかに言いようがないであろう。G

別の方面から考えるとコンナ事も言える。人間の仕事もしくは動作は数限りない。歩く。走る。漕ぐ。押す。引く。馬に乗る。物を投げる。鉄鎧を振る。掴み合う。斬り合う。整ち合う……など無限に千差万別しているのであるが、そんな動作の一つ一つが繰り返し繰り返し洗練されて来ると、次第に能に近づいて来る。

Y 剣術の名手と名手が、静かに一礼して、立ち上って、勝敗を決する迄の一挙一動は、その悉くが五分も隙のない、洗練された姿態美の変化である。極度に充実緊張した、しかも、極度に軽い精神と肉体の調和である。その静止している時には、無限のスビードを含んだ霊的高潮度が感ぜられる。又は烈しく切り結んでいるうちに、底知れぬ霊的の冷靜味がリズム化して流れている事を、客観的にアリアリと感ぜられる。……そうした決闘はそれ自身が「能」である。H

こうした「能」のあらわれは、格風を崩さぬ物の師匠の挙動、正しいコーチと場数を踏んだスポーツマンのフォームやスタイルの到るところにも発見される。……否、そんな特殊の人々のみに限らず、広く一般の人々にも、能的境界に入り、又は能的表現をする人々が多々あるので、そうした実例は十字街頭の到る処に発見される。

(中略)その他一芸一能に達した者、又は、或る単純な操作を繰り返す商人もしくは職人等のそうした動作の中には多少とも能的分子を含んでいないものはない。

筆者をして言わしむれば、人間の身体のごなしと心理状態の中から一切のイヤ味を抜いたものが「能」である。そのイヤ味は、或る事を繰り返し鍛練する事によって抜き得るので、前に掲げた各例は明らかにこれを裏書している。I

畢竟、「能」は吾人の日常生活のエッセンスである。すべての生きた芸術、技術、修養の行き止まりである。洗練された生命の表現そのものである。そうして、その洗練された生命の表現によって、仮面と装束とを舞わせる舞台芸術を吾人は「能」と名付けて、鑑賞しているのである。

右に就いて私の師匠である喜多六平太氏は、筆者にコンナ話をした事がある。

「熊(漢音ゆう)の一種で能(のう)という獣がいるそうです。この獣はソツクリ熊の形でありながら、四ツの手足がない。だから能の字の下に列火がないのであるが、その癖に物の真似がトモ上手で世界中で有りとあらゆるものの真似をすると言います。『能』といふものは人間が形にあらわしてする物真似の無調法さや見つともなさを出来るだけ避けて、その心のキレイさと品よさで、すべてを現わそうとするもので、その能と言ふ獣の行き方と、おなじ行き方だというので能と名付けたと言います。成る程、考えてみると手や足で動作の真似をしたり、眼や口の表情で感情をあらわしたり、背景で場面を見せたりするのは、技

巧としては末の末ですからね」

「能」という名前の由来、もしくは「能」の神髄に関する説明で、これ位穿った要領を得た話はない。東洋哲学式に徹底していると思う。

(夢野久作の文章『日本の名随筆8』「能」所収より)

現代の観点からは望ましくない表現も、時代と作者の意図に鑑み、そのまま記載している。また、問題の解答に支障がない範囲で文章を省略している。

〔注〕

*1 能

……日本の伝統芸能である能楽の一分野。謡という声楽と囃子という器楽の演奏に合わせ、能面を付けた演者が舞う演劇。

*2 ノホホンの仮面式 ……能で使われる仮面である能面は、喜怒哀楽の表情がわからないのつべりとしたものが多い。

*3 支那語

……中国語のこと。

問一 文中の空欄 X、空欄 Y に当てはまる語句として最も適当なものを、後の選択肢のうちからそれぞれ一つずつ選んで数字で答えよ。

空欄 X

① しかし ② したがって ③ または ④ なぜなら ⑤ そのうえ

空欄 Y

① だが ② たとえば ③ あるいは ④ そして ⑤ さらに

問二 文中の——線部(ア)「芸術的価値の薄いものほどわかり易くて面白い」とあるが、この記述の裏返しとして読み取れることとして、能とはどのようなものだと筆者は示唆しているか、説明せよ。

問三 文中の——線部(イ)「つまりその中に『解り易い』とか『面白い』とか『うまい』とか『奇抜だ』とか『眼新しい』とか言う分子が余計に含まれている」とあるが、ここでは筆者は「余計に」という表現にどのような意味を込めていると考えられるか。最も適当なものを、次の選択肢のうちから一つ選んで数字で答えよ。

① 余分に加えられた要素によって、作品の余韻の種類が多様になったという意味。

- ② 作品の元々の意味合いとは別の要素が付け加えられていて、作品が台無しにされているという意味。
- ③ 時代や人々の需要の変化に合わせて臨機応変に対応していて、これが芸術のあるべき姿だという意味。
- ④ 本来はまったく必要ないものが付け加えられていて、蛇足だという意味。
- ⑤ 人々が面白いポイントなどに気づきやすいように目立たせているが、そこまであからさまにすると底が浅くなってしまうという意味。

問四 文中の——線部(ウ)「日増しのお経みたようなものを大勢で唸っている横でノホホンの仮面式に押し通す」とあり、ここではこれは、能ぎらいな人が能がつまらないと思う理由として語られている。しかし本文ではこの後、これをむしろ、能が洗練された芸術の頂点である理由であると説明している。能の「ノロマが蜘蛛の巣を取るような恰好でソロソロリとホツキ歩くのだから、トモ退屈で見えられない」「それを演ずるにも、泣くとか、笑うとか、怒るとかという表情を顔に出さないでノホホンの仮面式に押し通す」といったつまらなさなありかたが、むしろ能の良さであるとみなされるのはなぜか。その理由を逆説的に表した箇所を、解答用紙の形式(くから)に合うように文中から五十七字で抜き出し、そのはじめと終わりの五字を書け。ただし、字数には句読点や記号も含む。

問五 文中の——線部(エ)「衆口の一致する処らしい」「衆口」とは「大勢の人が言うところ」という意味であるが、この「大勢」とはどういう人たちのことを指すか、説明せよ。

問六 文中の——線部(オ)「能のヨサを第一義的に自覚するには」までのところで、「第一義的」な「能のヨサ」を伝えるために、能とはどのような芸術かを筆者があえてまとめている箇所がある。そのまとめの中で「能のヨサ」を端的に表している言葉を文中から六字で抜き出せ。

問七 文中の——線部(カ)「以下陳ぶる処の第二義以下の説明」として、これ以降、筆者は能とは何かの説明を試みているが、第二義的に筆者は能とはどのようなものであると言っているか。それを端的に説明した箇所を、解答用紙の形式(くもの)に合わせて文中から二十八字で抜き出し、そのはじめと終わりの五字を書け。ただし、字数には句読点や記号は含まない。

問八 文中の——線部(キ)「とは言え『能』は事実上そんな物には違いないのであるが」とあるが、ここでの「そんな物」とはどういうものか、説明せよ。

問九 文中の——線部(ク)「そんな動作の一つ一つが繰り返し繰り返し洗練されて来ると、次第に能に近づいて来る」とあるが、このようにして「能に近づい」た結果、到達した領域・状態のことを、筆者は何と表現しているか。文中から四字で抜き出せ。

問十 本文には次の文章が抜けている。文中のどこに入れるのがよいか。最も適当なものを、後の選択肢のうちから一つ選んで数字で答えよ。

弓を弾く人は知っておられるであろう。弓を構えて、矢を打ち番えて、引き絞って、的に中った音を聞いてから、静かに息を抜くまでの刹那刹那に、言い知れぬ崇高な精神の緊張が、全身に均衡を取って、充実に、正しい、美しい、かつ無限の高速度をもった霊的リズムの裡に、変化し推移して行く事を、自分自身に感ずるであろう。能を演ずる者の気持よさはそこに根底を置いている。能の気品はそうした立脚点から生まれて来るのである。

- ① 文中の記号Eの箇所
- ② 文中の記号Fの箇所
- ③ 文中の記号Gの箇所
- ④ 文中の記号Hの箇所
- ⑤ 文中の記号Iの箇所

模範解答

I 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

日本には「能ざらい」と称する人が多い。否。多い処の騒ぎでなく、現在日本の大衆の百人中九十九人までは「能ざらい」もしくは能に対して理解を持たない人々であるらしい。ところがこの能ざらいの人々について考えてみると能の性質がよくわかる。

目下日本で流行している音曲とか舞楽というものは随分沢山ある。上は宮中の雅楽から下は俗謡に到るまで数十百種に上るのである。

ところでその中でも芸術的価値の薄いものほどわかり易くて面白いので、又、そんなものほど余計に大衆的のファンを持つてゐるのは余儀ない次第である。つまりその中に「解り易い」とか「面白い」とか「うまい」とか「奇抜だ」とか「眼新しい」とか言う分子が余計に含まれているからで、演者や、観衆、もしくは聴衆があまり芸術的に高潮せずとも、ストーリーの興味や、リズムの甘さ、舞台面の迫真性、もしくは装飾美等に十分に酔って行く事が出来るからである。A

然るに能はなかなかそうは行かない。第一流の名人が演じて、容易に共鳴出来ないもので、坐り直して、深呼吸をして、臍下丹田に力を籠めて正視しても何処がいいのかわからない場合が多い。

「世の中に能ぐらい面白くないシン臭い芸術はない。」日増しのお経みたようなものを大勢で聴っている横で、鼻の詰まったようなイキンだ掛け声をしながら、間の抜けた拍子で鼓や太鼓をタタク。それに連れて煤けたお面を冠った、奇妙な着物を着た人間が、ノロマが蜘蛛の巣を取るような恰好でソロソロリとホツキ歩くのだから、トデモ退屈で見えられない。第一外題や筋がバツとしないし、文句の意味がチンプンカンプンでエタイがわからない。それを演ずるにも、泣くとか、笑うとか、怒るとかという表情を顔に出さないでノボホンの仮面式に押し通すのだから、これ位たよりない芸術はない。二足か三足ソーツと歩いたばかりで何百里歩いた事になったり、相手もないのに切り結んだり、何万人もいるべき舞台面にタッタ二、三人しかいなかったりする。まるで芸術表現の詐欺取財だ。(中略)

と言うような諸点がお能嫌いの人々の、お能に対する批難の要点らしく思われる。B

更に今一歩進んで、

「能」というものは要するに封建時代の芸術の名残りである。謡いも、舞いも、囃子も、すべてが伝統的の型を大切に繰り返すだけで、進歩も発達もない空虚なものである。手早く言えば一種の骨董芸術で、現代人に呼びかける処は一つもない。世紀から世紀へ流動転変して行く芸術の生命とは無論没交渉なものである」(中略)

と言うに到っては、正に致命的の酷評と言つていいであろう。C

ところがそんな能ざらいの人々の中の百人に一人か、千人に一人かが、どうかした因縁で、少しばかりの舞いか、謡いか、囃子かを習ったとする。そうすると不思議な現象が起る。

1



その人は今まで攻撃していた「能楽」の面白くない処が何とも言えず面白くなる。よくてたまらず、有難くてたまらないようになる。あの単調な謡いの節の一つ一つに言い知れぬ芸術的魅力を含んでいる事がわかる。あのノロノロした張り合いのないように見えた舞いの手ぶりが非常な変化のスピードを持ち、深長な表現作用をあらわすものであると同時に、心の奥底にある表現欲をたまらなくそその作用を持つてゐる事が理解されて来る。どうしてこのよさが解らないだろうと思ひながら、誰にでも語つて聞かせたくなる。処構わず舞つて見せたくなる。万障繰り合わせて能を見に行きたくなる。

今まで見た実例によると、能ざらいの度が強ければ強いほど、能好きになってからの熱度も高いようで、その変化の烈しさは実例を見なければトデモ信ぜられない。実に澄ましたものである。D

しかし、そんな能好きの人々に何故そんなに「能」が有難いのか、「謡曲」が愉快なのかと訊いてみても、満足な返事の出来る人はあまりないようである。

「上品だからいい」「稽古に費用がかからないからいい」「不器用な者でも不器用なままやるからいい」などという理屈がつけられている。又、実際そうには相違ないのである。X それはホンの外面的の理由で「能のどこがいい」とか「謡いの芸術的生命と、自分の表現欲との間にコンナ霊的の共鳴がある」とか言うような根本的の説明には触れていない。要するに、

「能」というものは、何だか解らないが、幻妙不可思議な芸術である。そのヨサをしみじみ感じながら、そのヨサの正体がわからない。襟を正して、夢中になって、涙ぐましい程ソクソクと共鳴して観ておりながら、何故そんな気持ちになるのか説明出来ない芸術である」というのが衆口の一致する処らしい。E

正直の処、筆者もこの衆口に一致してしまいたいので、これ以上に能のヨサの説明は出来ない事を自身にハッキリと自覚している。又、真実の処、能のヨサの正体をこれ以上に説明すると、第二義、第三義以下のブチコワシ的説明に随するので、能のヨサを第一義的に自覚するには「日本人が、自分自身で、舞いか、囃子をやつて見るのが一番捷徑」と固く信じている者である。

これは、この記事の読者を侮辱する意味に取られると困るが決してそうでない。以下陳ぶる処の第二義以下の説明を読み終られたならば、筆者の真意の存する処を諒とせらるるであろう。F

「能」を説明しようとする劈頭第一に「能」という言葉の註釈からして行き詰まらねばならぬ。

「能」という言葉自身は支那語の発音で、才能、天性、効力、作用、内的潜在力、など言ういろいろな意味が含まれているようである。しかしそんなものの美的表現と註釈しても、あまりに抽象的な、漠然たる感じで、あの松の絵を背景とした舞台面で行われる「お能」の感じとピッタリしない。「仮面と装束を中心生命とする総合芸術」と註釈しても、何だか外国

2

- I (1) A(f) B(e) C(d) D(c)
 (2) modern (3) known
 (4) (c) (5) (b)
 (6) 戦闘用馬車レースの勝者は操縦者ではなく、馬車の所有者であるというレースのルールがあったため。
- II (1) happiness (2) choosing (3) (d)
 (4) ある状況において、否定的な面を見る代わりに良い面を見るように選択すること、及び怒る代わりに些細なことを許し忘れるように選択すること。
 (5) (c)
- III (1) She turned on the TV to watch
 (2) doesn't play baseball as well as his brother
 (3) had joined our team, we would have won
 (4) you tell me how to pronounce your
 (5) is difficult for her to make
- IV (1) (a) (2) (b) (3) (a) (4) (c) (5) (b)
 (6) (c) (7) (c) (8) (b) (9) (a) (10) (b)
 (11) (c) (12) (a) (13) (a) (14) (b) (15) (a)

- V (1) E (2) B (3) F (4) A (5) H
 (6) C (7) G (8) D
- VI (1) First of all (2) Also
 (3) For example (4) On the other hand
 (5) Therefore
- VII (1) 宿題を終えたので、彼女は映画を観ることにした。
 (2) 彼女は私が台所で失くしたスプーンを見つけるのを手伝ってくれた。
 (3) 私は次に何が起こるか想像することができなかった。
 (4) 私は若いころを思い出させてくれる歌が好きだ。
 (5) 寝なさい、さもないと朝早く起きられませんかよ。
- VIII (1) Without cars (If we didn't have carsでも可), our lives would be inconvenient.
 (2) Show me what you have (you are holding でも可) in your hand.
 (3) My father let me use (allowed me to use でも可) his car for travelling (traveling でも可) (for the trip でも可)。

- I 問一 X:① Y:②
 問二 (例)能は一見、わかりにくくて面白くないように見えるが、だからこそ芸術的価値が高いものだ。
 問三 ⑤
 問四 はじめ：手や足で動
 終わり：末の末です(から)
 問五 (例)能好きな人
 問六 幻妙不可思議
 問七 はじめ：人間の身体
 終わり：味を抜いた(もの)
 問八 (例)才能、天性、効力、作用、内的潜在力などの美的表現であり、仮面と装束を中心生命とする総合芸術ともいえるもの。
 問九 能的境界
 問十 ④
 問十一 一つ目の区切り：③
 二つ目の区切り：⑥
 問十二 一つ目の段落：②
 二つ目の段落：①
 三つ目の段落：⑥
- II 問一 ⑤ 問二 ② 問三 ① 問四 ④
 問五 (例)若い母親は「おばちゃん」に金銭的援助や借金返済の猶予などの何らかの目的で頼みごとをしようと訪問したが断られてしまい、にっちもさっちもいかなかったしまったということ。
 問六 ⑤ 問七 ④
 問八 (カ)⑤ (キ)①
 問九 血まなこになって活動する師走の街
 問十 ② 問十一 超然 問十二 十二月
 問十三 いよいよ押し詰ってまいりました。(句点はあってもなくても可)
 問十四 はじめ：年末の秒読
 終わり：ざる楽天家
 問十五 (例)三人とも生活に余裕がなさそうである点については共通しているが、社会や時勢に翻弄されている他の二人とは違って、子犬を連れた紳士はそうしたことから超越しているかのような心の持ちようが対照的である。
- III 問一 (1)一 (2)同 (3)月 (4)鳥 (5)常
 問二 (1)供給 (2)帰納 (3)権利
 (4)支出 (5)守備(あるいは防衛、防御)

- I (1) A 1 B 3
 (2) C 2 D 1
 (3) E 3 F 8 G 11 H 16 I 7 J 2
 (4) K 1 L 2 M 2 N 1
 (5) O 120 P 720
- II A. (1) ① $-a+5$
 (2) ② $\frac{11}{6}$ ③ $\frac{19}{6}$ ④ $x^2+y^2-\frac{11}{3}x-\frac{19}{3}y+\frac{26}{3}$
 B. (1) ⑤ $-\sqrt{2}\leq t\leq\sqrt{2}$
 (2) ⑥ t^2+3t-1
 (3) ⑦ $3\sqrt{2}+1$ ⑧ $-3\sqrt{2}+1$
- III (1) $y=x^3$ より、 $y'=3x^2$
 したがって、点 (t, t^3) における接線の方程式は
 $y=3t^2(x-t)+t^3=3t^2x-2t^3$
 (2) $y=3t^2x-2t^3$ と $y=x^2+x+c$ が接するので、
 $3t^2x-2t^3=x^2+x+c$
 つまり
 $x^2+(1-3t^2)x+2t^3+c=0$
 この式が x について重解を持てばよいので、
 $D=(1-3t^2)^2-4(2t^3+c)=9t^4-8t^3-6t^2+1-4c=0$

- (3) 題意をみたとす接線が4本あるためには、(2)で求めた式を満たす異なる実数解が4つあればよいので、

$$9t^4-8t^3-6t^2+1=4c$$

と変形する。

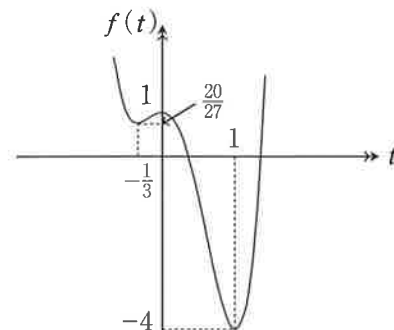
$$f(t)=9t^4-8t^3-6t^2+1\text{とおくと}$$

$$f'(t)=36t^3-24t^2-12t=12t(t-1)(3t+1)$$

$f'(t)=0$ より、 $t=0, 1, -\frac{1}{3}$ であるので、増減表は下のようなになる。

t	...	$-\frac{1}{3}$	...	0	...	1	...
$f'(t)$	-	0	+	0	-	0	+
$f(t)$	$\searrow$	$\frac{20}{27}$	$\nearrow$	1	$\searrow$	-4	$\nearrow$

$y=f(t)$ のグラフは以下のようなになる。



$y=f(t)$ と $y=4c$ との共有点が4個あるためには
 $\frac{20}{27}<4c<1$ であるので、 $\frac{5}{27}<c<\frac{1}{4}$

MEMO

[illegible]

MEMO

[illegible]